■佐藤紅緑　　**小説家，俳人。サトウハチローの父。子規に愛され，「ああ玉杯に花うけて」で知られた少年小説第一人者。**
さとうこうろく
佐賀の乱・・1874＝　　青森県第三大区第一小区(現弘前市)で，蘭学者で福沢諭吉に英学を学び維新後，故郷弘前で和洋雑貨・書籍店を開いていた佐藤弥六の次男に生れる。

明治14年政変1881＝ 7歳：

岩倉具視没・1883＝ **9歳：**

東奥義塾に続いて，
帝国憲法発布1889＝15歳：

弘前中学を中退，
大本教・・・1892**＝18歳：**
郡司千島探検1893＝19歳：**_上京し，遠いながら縁戚関係にあった陸羯南の玄関番となり，**
日清戦争始・1894＝20歳：**_新聞{日本}記者となる。そこで正岡子規に出会って俳句を師事。**
日清戦争終・1895＝21歳：脚気となり帰郷し，{東奥日報}に入社。
白馬会・・・1896＝22歳：再び上京して，**_本格的に俳句修業する一方，大隈重信の進歩党党員になり，**
八幡製鉄始・1897＝23歳：仙台の儒医で漢学者の鈴木春山の娘と結婚，
子規句歌革新1898＝24歳：長男が誕生するも直ぐ死去。***青年急進党を組織するなど，俗物性で子規を悩ませる。子規門下アンソロジー「新俳句」で，四天王の一人と目されるも，結核が再発したため，仙台で{河北新報}の記者をした後，**
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝26歳：**_再び上京，東京・関西の新聞社を転々としながら，俳人として才能を示す。**
田中正造直訴1901**＝27歳：**_江戸俳句にも通じていて，滑稽俳句のアンソロジー「滑稽俳句集」を編纂。**
教科書疑獄・1902＝28歳：「俳句小史」。**_師子規が死去し，{ホトトギス}追悼号に「子規翁」を執筆，親しい関係を生き生きと描く。**
日比谷公園・1903＝29歳：福井から東京に戻る。「芭蕉論稿」，
日露戦争始・1904＝30歳：句文集「俳諧紅緑子」。「蕪村俳句評釈」など著わすが，**_高浜虚子との諍いもあって，俳句から遠ざかり，**
日露戦争終・1905＝31歳：「俳句作法」。**_脚本「侠艶録」を書いて好評を博し，新派脚本を次々執筆。**
満鉄発足・・1906＝32歳：「古句新註」。**_生活困窮に煩悶し熊本・長崎など西遊。「行火」で自然主義の小説家として認められ，**

ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝34歳：「紅緑日記」。***短編集「椙」などで，作家の地位を確立。さらに大衆文学に転じ，**

韓国併合・・1910**＝36歳：**「地上」，

明治天皇没・1912＝38歳：
大正政変・・1913＝39歳：「谷底」，

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919**＝45歳：**「虎公」，

原敬首相暗殺1921＝47歳：「大盗伝」などを新聞に連載，**_社会小説的傾向も示し，**
水平社結成・1922＝48歳：かねて交際のあった横田シナと再婚。
関東大震災・1923＝49歳：七女に当る佐藤愛子が誕生。
護憲三派圧勝1924＝50歳：兵庫県鳴尾に移住。

金融恐慌・・1927＝53歳：翌年にかけて，**_雑誌{少年倶楽部}に「ああ玉杯に花うけて」を発表し広く名を知られるなど，**
共産党事件・1928**＝54歳：**自伝小エッセイ「自分を顧みて」，

_長編少年少女小説に新分野を拓いた。
満州事変・・1931＝57歳：

帝人疑獄事件1934＝60歳：{日本及日本人}の子規33回忌記念号に「糸瓜棚の下にて」，

日中戦争始・1937**＝63歳：**

_晩年は俳句の世界に回帰し，

日米開戦・・1941＝67歳：***俳句グループ{紅緑会}が発足，**

創価学会検挙1943＝69歳：古希を記念して「花紅柳緑」出版。

敗戦・・・・1945＝71歳：
新憲法公布・1946**＝72歳：**

三大事件・・1949＝75歳：**_没した。**
翌年，遺句集「紅緑句集」。

復本一郎「佐藤紅緑・子規が愛した俳人」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，山田風太郎「人間臨終図巻」，